

山形市郷土館 旧濟生館本館



霞城公園 二ノ丸東大手門

ご利用案内

場 所：霞城公園内

(山形駅から徒歩15分)

開館時間：9：00～16：30

閉館日：12月29日～1月3日

入館料：無料

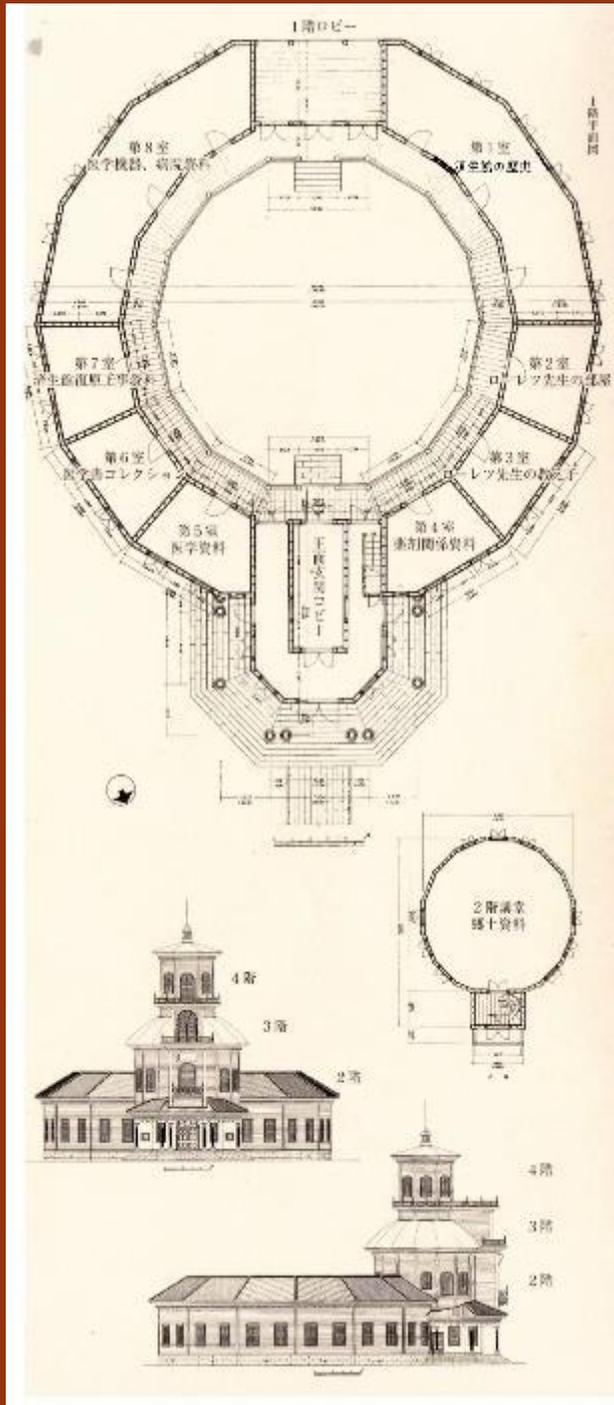


国指定重要文化財



山形市郷土館

山形市霞城町1番1号 電話 023-644-0253

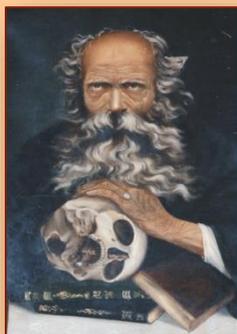


郷土館の3つの宝



1 『濟生館』の額(2階講堂)

“濟生館”とは、“人の命を救う建物”という意味です。明治時代初期の日本政府の代表三条実美によって名づけられました。この書は三条実美が自ら書いたもので、これを木彫りにした額が建物正面に掲げられています。



2 『ヒポクラテスの像』(1階ロビー)

東京大学の画学教授だった山田成章が描いた、ギリシャの医聖ヒポクラテスの肖像画。山田は高橋由一の弟子で、明治初期の油絵画家として有名でした。



3 『解体新書』『本草綱目』(1階ロビー)

江戸時代中期の医師・杉田玄白が翻訳した日本最初の西洋解剖書『解体新書』、中国の本草書を翻訳し、解説した事典『本草綱目』を展示しています。



旧濟生館本館は初代山形県令三島通庸の命により、1878年に竣工した擬洋風建築の病院です。

擬洋風建築とは、明治時代(1868-1912年)初期の日本の建築様式のひとつです。

日本人の職人が西洋建築をまねて造った建物で、西洋的・日本的なデザインが混在していることが特徴です。

当初は中心市街地に建てられていましたが、1969年に霞城公園内に移築復原されました。



Albrecht Von Roretz
(アルブレヒト・フォン・ローレツ)

濟生館には医学校もつくられました。1880年、三島通庸はオーストリア人医師ローレツを医学校教頭兼館医として招きます。約2年間、山形において西洋医学の普及に尽力しました。



らせん階段



2階講堂からの眺め